

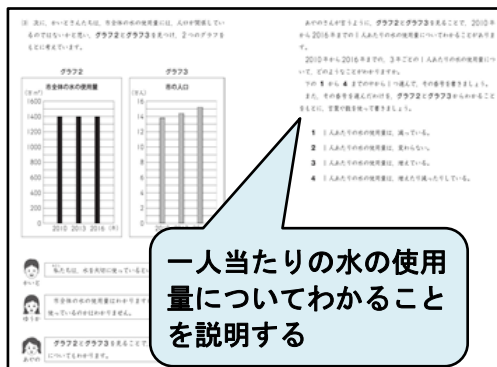
調査問題から見える「授業改善のポイント」＜小学校 算数＞

2 (3) 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述できるかをみる問題

〔量と測定〕〔数量関係〕＜平均正答率 県 48.6%（全国比-3.5）＞

調査結果の分析

- ・「市全体の水の使用量」を「一人当たりの水の使用量」と捉えた誤答は全体の20.1%であった。
- ・二つの棒グラフの特徴や傾向を関連付けて判断し、判断の理由を言葉や数を用いて説明することに課題が見られる。



【授業改善のポイント】

○複数のグラフから必要な情報を取り出し、情報を関連させて考える指導を工夫する

- 活動例
- ・グラフに示されている数値の読み取りだけでなく、そこから何がいえるのかを、特徴や傾向に着目し、伝え合う。
  - ・複数のグラフから読み取った個々の情報が、他のグラフの情報とどのように結びついているか話し合う。

○目的に応じて、資料を活用できる指導を工夫する

- 活動例
- ・計算して具体的な数値を求めなくとも、グラフから読み取ることができる資料の特徴や傾向をもとに、数量の大小について判断できることを説明する。
  - ・調べる目的を明確にした上で、グラフのどの部分に着目すればよいかを確認する。

3 (4) 示された除法の式の意味を理解しているかどうかを見る問題

〔数と計算〕〔数量関係〕＜平均正答率 県 43.3%（全国比-3.7）＞

調査結果の分析

- ・ $1800 \div 6$  が、6 m分の代金を表しているという誤答は全体の23.9%であった。
- ・式がどのような意味を持つのかについて解釈することに課題が見られる。



【授業改善のポイント】

○式の意味を理解できるようにする指導を工夫する

- 活動例
- ・立式の際に、具体的な問題場面で適用する演算を判断し、その判断の理由を説明する。
  - ・式が何を表しているかを、具体物や図、数直線などを用いて説明する。

○計算の過程を大切にするとともに、答えの意味を理解できるようにする指導を工夫する

- 活動例
- ・計算するときには、計算の過程を丁寧にノートにまとめる。
  - ・元の式と、計算に関する性質を活用して変形した式を比較・検討し、それぞれの答えが表す意味を振り返る。